会 議 録（要点筆記）

会　　議　　名	第５期　第３回米原市自治基本条例推進委員会
開　催　日　時	平成28年６月６日（月）午前15時00分～午前16時45分
開　催　場　所	米原庁舎　会議室２Ａ
出席者および欠席者	出席者：今川委員、大石委員、鈴木委員、福永委員、岩山委員、垣見委員、吉原委員、吉川委員 事務局：鍔田次長、小寺課長補佐、森川主幹、竹本 傍　聴：なし 欠席者：髙木委員
議　　題	・第２次総合計画について ・前回のふりかえり ・事例紹介 ・意見交換
結　　論	「つながり」「ひろがり」「多様性と柔軟性」「外部発信」というキーワードを実現していくには情報を集約し発信したり、人が集える拠点が必要。また、米原の魅力を発信する国際力もこれからは重要。
審　議　経　過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	１　開会 事務局進行 本日の会議が成立していることを報告 平成 28 年度事務局体制の変更に伴うあいさつおよび自己紹介 ２　あいさつ 会　長：前回もいろいろ話を皆様とさせていただていて、市民が生き生きと活動できる場や集う場が必要と感じています。市民と行政がどう連携していくのかも考える必要があるので、今日はさらに具体的に考えて行きたいと思います。 ３　第２次総合計画について 会　長：内容の検討に入る前に自治基本条例にとって総合計画の中でどのように理念が組み込まれているかを確認します。特に６月１日から第２次総合計画の策定に向けたパブコメ期間中なので、事務局から説明をお願いします。 ※事務局より総合計画の説明を実施 会　長：総計委員も兼ねておられる委員からこのことについて意見をお願いします。 委　員：冊子自体は分厚いので、読むには大変かと思いますが、市民意見や委

	員の意見も冊子にはよく反映してもらっています。私のしている活動の中でも総計の話をしてもらったのですが、この総計を生かしてどう市民が関わっていくかというところが大事だと思いました。自治基本条例推進委員会の会議の中でも市民が具体的に関わっていく方法や案を出していきたいと思います。 4　前回のふりかえり 会　長：では次の議事に移ります。前回の意見交換の概要を事務局から説明してください。 ※事務局から資料に基づき説明 会　長：前回のふりかえりを『つながり』、『ひろがり』、『多様性と柔軟性』、『外部への発信』の４つのキーワードとして整理していただきました。前回の意見も元にしてどのような状態をつくっていくといいのかを今期のテーマとして考えて行きたいと思います。議論の前にまずは他市の紹介を私と副会長から行いますので、その後みなさんも御存知のことがあれば紹介していただきたいと思います。 5　まちづくりのヒント（事例紹介）　※要点のみ記載 会　長より 〇あしや市民活動センター（リード芦屋）について ・芦屋市とは25年くらい前から付き合いがある。 ・阪神淡路大震災を契機に自治会活動が活発化し、その後神戸や大阪のＮＰＯが支援協力をしている。自治会を中心にまちの復興・再興が始まっており、比較的ＮＰＯと地縁団体が上手く信頼関係を築いている市でもある。 ・2004年頃から協働の指針づくりを始め、人と人が結びついて活力あるまちになるには協働の拠点が必要だという結論に至った。自治会やＮＰＯとの連携のもとで活力あるまちにと指針を受けて、条例を作り、条例を元にして拠点づくりを行った結果、あしや市民活動センターができた。 ・ワークショップなどを行って、見えてきたのはつながりやひろがりという、米原と同じ視点だった。 ・市役所から数分にある公共施設の空間を活用して事務局として市民参画課の職員と住民の母体を作るために市民から公募で集まった人とＣＳ神戸や大阪ガスの方にアドバイザーになってもらい、公募市民を中心に中間支援組織をつくる活動を始めた。ＮＰＯとＮＰＯや自治会をつなぐ役割を果たし、市との関係を構築する役割の中間支援組織をおこした。 ・基盤ができた段階でアドバイザーたちが手を離し、市民自ら独自に中間支援

	団体として活動するに至っている。 ・情報交流の場であり、テーマに応じて職員も市民も集まり議論する場であり、会議の場所を提供する場などとして構築し、連携の形がつくられた。 ・自治会の連携があるとはいえ、積極参加が一部なので、つながりの必要性を伝えるために自治会関係の講座やワークショップが熱心に行われた。 ・市民が活動したいことの情報提供を受ける場でもあり、連携したい事を相談する場でもあり、ＮＰＯ立ち上げ時の支援をする場でもあり、自治会とＮＰＯをつなぐ場でもある。 ・活動センターはどうしてもＮＰＯを中心に動いていくので、全国でもＮＰＯと自治会がつながっている場はここくらいしかないのではと思っている。 〇アオーレ長岡について ・新幹線駅から直結して通路を通じて市役所に入れるつくりで、１階部分が開放的な空間で、市民が集えるひろい空間になっている。ナカドマという名前でイベントや結婚式ができるようになっていて、いろんな形で市役所に近づきやすい仕組みを作り、市民がいろんな活動をすることで市役所を支えているんだよという雰囲気がする施設 ・ガラス張りの議場や、執務室もできる限り見えるような開放的な作りにしている。 ・ＮＰＯが集まったり、連携する場があることで市の活動にも興味を持ってもられるように誘導している。 〇その他のこと ・多様性や外部への発信部分になるが、海外からの観光客も増えている。市民の方で能力を持っておられる方はたくさんいる。言語だけでもいろんな国で活動された方が市内にはいるのに、どこの市もなかなか活用できていない。米原の場合、古民家を活用して海外の方を受け入れて宿泊をされている団体もあるので、民間が海外との交流をすることがこれからは必要になってくるのではないか。 ・長浜市の田根地区ではマサチューセッツ工科大学と交流をしている。まちの資源が古民家や建築の調査対象として価値があるということで日本の大学の先生がつなぎ役になって動いた。米原にも伊吹山の薬草など国際的に発信することで価値が評価され、交流につながるものもたくさんあると思うので、活用しないともったいないと思っている。 副会長より 〇京都市市民活動総合センター（しみせん）について ・大学と地域の連携というつながりで去年から運営委員として参加している。

	・H15年に立ち上がり、市民の公益的な活動を支援するための４つのセンターが入っている大きな建物 ・京都は学生活動が盛んで、若い力で動いており、日本のＮＰＯ施策の先進的な地である。 ・当初震災を経てボランティア活動意識が市民の間に浸透していたため、ボランティア活動総合センターという仮称で構想が作られた。 ・基本構想策定後、プロジェクトチームの発足、市民参加ワークショップなど、市民協働で進められた。また、管理者選びのコンペも行われた。 ・指定管理は中間支援組織のきょうとＮＰＯセンターが受託。有名なＮＰＯである。この団体はＮＰＯ取得の講座を行ったり、ボランティアのマッチングを行ったりから始めて、色々な事業を立ち上げている。ＮＰＯの活性化のために基金としての投資のようなことや社会的な課題のビジネスモデル、ソーシャルイノベーションの研究などにも派生している。 ・指定管理者が設置した運営委員会と京都市が設置した評価委員会がある。運営委員会の委員には異業種の方になってもらい多角的な目線で運営するようにしている。評価委員会は定款に基づき事業がなされているか等公募市民を含むメンバーが実施している。 ・実際のしみせんの機能としては「つくる・つながる・発信する」をキーワードに場を提供している。会議用施設の他に資料作成のための印刷機や、有料の簡易貸事務所（スモールオフィス）や郵便授受なども用意がある。情報入手のための相談機能や図書機能も充実している。 ・情報提供には力をいれていて、紙媒体での情報誌の発行やネットでの発信を行っている。他にもＮＰＯが持続するにはどうするべきかとして実務的な書類の書き方や会計講座など色々な講座・企画をしている。 ・何かしたいけど…という市民を発掘することにも力を入れていて、団体がプレゼンを行い、活動に賛同する人は寄付をするというファンディングを実施している、自分ではやり始めることはできなくても寄付で参画するという形をしている。市民の力で活動を支えるという形をつくるために寄付文化を醸成することをしている。 ・今の時代は来場者が減っている。活動自体が減っているのではないが、ネットでできることが多いので、ツールとして場の必要性が減っている。そのため、活動をバーションアップさせたいという方へのより専門的な相談などに力を入れていくようにしている。 ６　意見交換 会　長：つながりやひろがりというテーマで私たち二人が知っているまちの情報を伝えさせてもらったが、米原では当然独自の形をつくっていってほしいと思います。みなさんが知っていることで、他のまちではこん

	な活動しているなどあれば教えていただけないでしょうか？ 委　員：ひとまち交流館を拠点とした京都の活動団体に20年近く参画しています。京都は充実しているように思えます。 副会長：確かに施設は整っているが、時代が変わってソフト面でどう発展させて行くかが重要になっています。活動の幅も広がっているので。 副会長：長年参画されている中で変化を感じますか？ 委　員：メンバーが高齢化しています。行動的な方はFacebook等で連絡をとりあっているが、そうでない方も多いので、あいだをとって交流館を拠点・集合場所としています。顔を合わせることが大事。長い期間定期的に合ってきましたので、家族のようにお互いの状況を気にしています。集まって話をすることが利用者にとってはとても身近で重要なことですね。だんだん変わりつつもあるし。残念ながら若い方は入ってきません。 副会長：世代の継承、次の担い手育成は難しいのですね。学生の連携の仕組みができるといいのかなとも思います。 委　員：自分の地域でも憩いの場所はあるけど、参加する人は決まっています。お年寄りの場合、男性が来ないので、賭けない麻雀をし始めたら、30人くらい集まるようになりました。女性の方も車いすの方も楽しんで来られる。個人でしているので、広げることは難しい。 副会長：地元の講座でも賭けない麻雀は高齢の方にも大変人気で、頭の体操にもつながると２年待ちになっています。大変いい活動ですね。 委　員：個人だから簡単にできますが、組織でするのは難しいです。 副会長：組織化したいと感じた時に相談に行くようなところは思いつきますか。 委　員：社協などには相談することもありますが、なかなか進んでいません。 委　員：確かに相談しても具体的にすぐ進んでいかないところはあります。 委　員：個人でしているとどうしても自分に負担がかかってくるので、その辺が解決できるといいなとは思います。自分の事業のつながりでしているので今はいいけれど、そういったことがスムーズに進むようになるといいなと思います。 会　長：スムーズにネットワークがつくれるようにコーディネートができるといいですね。 委　員：社協もされているが、米原にはルッチまちづくりネットという団体があり、中間支援組織としては大きい存在ではないでしょうか。総計のワークショップなども一緒にされています。 委　員：どんな組織ですか？ 事務局：いろんな団体とのチャンネルをもっておられ、ワークショップする上でもそのつながりが重要にもなるし、開催手法についても知識をもっておられる団体です。

	会　長：のまどカフェとしてカフェを通じた空間づくりから結びつきをしておられますね。 委　員：伊吹の薬草の里でフェスをされています、年々拡大していますね。年に1回いろんな方が集まって店を出されているのですが、だんだん良くなっている気がします。去年ここでお花を買って、それが育っているなどと話をされているのを聞きました。子どもたちも若いお母さんも次回を楽しみにされていて。祖父母まで連絡して、いいお花売ってるよと広げたり、地域の方同士楽しそうに会話したりしておられました。 委　員：薬草フェスタはゴールデンウィークにしていたのですが、今年仕様を変えて芝生広場で店舗に来ていただいて市場風に実施していたようです。 委員長：いろんな団体がいろんなところで活躍しているのですね。 委　員：広報の折り込みのポスターを見て、イベントを知って参加したりしています。とてもよくできていると思います。チラシもデザイナーがいいのかとても素敵で面白いです。 会　長：資金はどこから得ているか御存知ですか？ 委　員：伊吹薬草の里文化センターの指定管理で実施しています。夏まつりは他にケアセンターいぶきと愛らんどと三者で連携実施しています。なかなか儲けはありません。 会　長：ネットワークができているのですね。 委　員：近くにそういう施設があるので、連携しやすいのはあります。 会　長：これまでの話を聞いていると情報を集めたり、人のつながりの拡大につながる拠点性が必要だと思いますか？ 委　員：今はまとまりがない。 委　員：確かに、何か１つあるといいかなと思います。団体同士が協力して事業することはされていますが、例えば出店される方がどんどん増えていても同じような興味関心の傾向のある方の個人的なつながりが上手く広がっている状態です。イベントするときには確実に集まってもらえるが、そこから先に広がっていくのが難しい。もっと違う人たち、違う分野の方と出会いつながれる場所は必要かなと思います。どこの会場でも同じ顔ぶればかりが集まっているので。 委　員：さきほどの個人でしている活動なども他の地域の方が知る機会があれば別の個人の方が地元できるようになりますよね。 会　長：情報共有をする上で拠点的なところがあって、代わりに発信する形がある方がいいのでしょうか。 委　員：そういうことはやはり必要なのかなと思います。 会　長：交流の場や拠点があって、まとめて発信した方が市民には見えやすくなって、参加したいという思いになりやすいのかもしれませんね。

	委　員：町が合併している市だからかもしれないですが、情報が確実に来ないから、いろんなことが全て重なってきます。実施しようと思う日がだいたい同じです。スポーツでもそうだが、大会の日が重なったりするのが、歯がゆく感じます。早い段階で調整できたらいいのにと思ってしまいます。 委　員：さきほどの話でもあったように同じ興味関心のある人が集まるので、参加者はかぶらない時でも、役員やスタッフになる方はかぶりやすいですね。地区が違うからと重なったりしています。 委　員：何するにしても情報がうまく回っていなくて、難しい。 委　員：それぞれがいろんなところでいろんな活動をされていることを全て一元的に集約する事は難しいとは思います。いくつかの分野に分かれてカレンダー的に集約していけるといいのではないかと思います。 委　員：大きなイベントであれば時期は決まっているのだから、調整できそうな気がしますが。 委　員：４つの公民館などの企画や日程は調整されていると思いますが、それ以外の個別の取り組み部分は難しいですね。 委　員：多分行政の中でも把握・調整できていないのでは。 事務局：大きなイベント的なものはある程度調整しているとは思いますが、課でする細かい部分はどうしてもかぶっています。 会　長：自治体によってはイベントカレンダーを積極的に作っているところもあります。 委　員：公民館等の部分の集約はしていませんか。 委　員：おそらく広報課でされている。さきほどの話にもありましたが、スポーツの秋など、イベント時期が集中し、どうしてもイベント参加者の取り合い的になってしまう。同じ時期に同じようなイベントというのは避けられないのかも知れません。 委　員：今これだけネットがあるのだから、運営する人たちが情報を自分たちで投稿してそれをまとめるだけでも十分ではないでしょうか。 副会長：情報を集める機能だけでも十分。他市のセンターでもそうですが、集まってきた情報を集めた人たちが宣伝もしてくれるので、発受信機能を持っているだけでも意味があるかなと思います。 委　員：私たちの団体でも毎年同じようにかぶっています。 委　員：今、市民がいろんな事を語り合い、話しを聞く場マルシェ的イベントの中で設けて実施しています。人と人がつながりネットワークが広がるようにと考えています。 会　長：支援があれば強化できるのになと思うこともありますか？ 委　員：今やり始めたところで、みんな楽しみながらしています。３０代４０代が中心のメンバーで、やる気にあふれている状況。さきほどのキー

	ワードも盛り込まれているようなやり方をしています。家庭や仕事の状況を抱えながら自分のやりたい形で地域に関わるような方法を選んだ人がたくさんおられます。発信もＳＮＳなどを多用しています。 会　長：情報交換ができて、必要があればネットワークが広がっていく形、そしてカレンダーのようなもので調整をとれるようになるといいのかなと思いました。 会　長：もうひとつ。外への発信の点で国際化について伺いたいなと思うのですが。 委　員：外国の方が日本に来ていて、次の泊めてくれる人探していますという情報が回ってくる事がありますが、なかなかうちにどうぞとは言えないです。 委　員：ＡＬＴの方に家に来てもらったりしたことはありますよ。短い期間ではあっても、少しでも日本の事を知ってもらえるといいかと思って。 委　員：ミシガンとの提携があるのではないですか？ 事務局：県がミシガン州と姉妹都市提携をしています。 委　員：今年、ホッケーのU18の日本代表のチームとの絡みがあって、韓国のチームとスタッフが来られたので、地元の小中学生と交流してもらいました。 会　長：米原はホッケーが盛んなのですね。そういった点から米原のよさを知ってもらって、国際交流するきっかけになっていくのでは。 事務局：今東京オリンピック・パラリンピックや国体に向けてホッケーのまちであることを発信したいということで、ホッケーの強い国ニュージーランドを相手にホストタウンを進めています。事前合宿や文化的交流を展開したいということで国に申請をしているところです。 会　長：米原の素晴らしさをニュージーランドに知ってもらうということですね。 事務局：文化的な交流もできたらと思っています。 会　長：交流した方がまちが活気づいて、新しい文化も生まれたりするので、いいですね。 委　員：文化力で人の循環をつくるという記事を前に読みました。その通りだと思います。誰かのために行ってあげなくてはいけないとかではなく、自分が行きたい、行って楽しかったと良かったと自分のためになることで人は進んでいくと思います。寄付もただの寄付ではなく、自分にとって喜びにつながるような持ち出しがあることが大事ですね。人を刺激するような魅力がないといけない。人によってよいと捉えるものは違うとは思いますが。 委　員：ネットとかで終わるのではなく、いろんな情報が集まる場所、教えてもらえる拠点は絶対必要だと思います。ＮＰＯをつくるところまでな

	かなか米原の場合は行かないのではないでしょうか。自分のできる範囲の中で活動していきたいという人も多いので。 委　員：若い人の華やかなイベントでのつながりも大事かなと思います。終末医療ホスピスの孤独な高齢者へのケアを始めたのですが、同じ志を持った方があればつながって行きたいと思っています。 委　員：家でさみしくしている高齢者は多いです。ちょっと話に行くだけで喜ばれます。息子に頼んでも聞いてくれないからと頼み事をされる方もいます。 委　員：こんな話をしても「いいな」というところで今は終わってしまいます。やはり拠点がないといけないですね。京都のひとまち交流館のような。 会　長：情報集約されてそこで情報交換できたり、新しいネットワークができる拠点が必要だということでよろしいですか。国際交流についてはホッケーを通じて文化の発信や米原の魅力の発信につながっていくことで米原の文化力を高めていけるといいなというのを今日のまとめにしたいと思います。次回、具体的にどうしていくといいのかは事務局の方で案を出していただくということでお願いしたいと思います。最後に副委員長から。 ８　閉会 副会長：暮らしをどう発展させていくかという話の中に質のよい暮らしをどう作っていくかというのがありましたが、国際化の事例の中であげようかと思っていたのですが、自治体の国際ネットワークの中にスローシティというのがあります。スローフードの地産地消や土地の物を大切に自分たちのアイデンティティをもって暮らしていくことを実現するための仕組みですが、ある程度の項目をクリアしてスローシティの認証を受ける仕組みになります。こういった外部的な目指すものがあるといろんな活動が集約されて外に発信できるので、そこに市民が市と一緒に集まって活動するということもできるのかなと思います。このスローシティの認証は５万人以下の小都市でしか加盟できないので、小さな自治体が将来的に豊かな暮らしを実現していくのかを考えるのには面白いのではと思いお話させていただきました。今日はありがとうございました。

会議の公開・非公開の別	■公 開　　傍聴者：　０人 □一部公開 □非 公 開 一部公開または非公開とした理由

	（　　）
会議録の開示・非開示の別	■開 示 □一部開示（根拠法令等：　　） □非 開 示（根拠法令等：　　）
全部記録の有無	会議の全部記録　□有　■無 録音テープ記録　■有　□無
担　当　課	政策推進課（内線91-246）